

創造と スポーツ科学

The Creation and Sports Science

東海体育学会 編

株式会社 杏林書院

東海体育学会 編

[編集委員]

- 藤井 勝紀 (愛知工業大学)
花井 忠征 (中部大学)
庄司 節子 (名古屋経済大学)
寺田 恭子 (名古屋短期大学)

[執筆者] (五十音順)

- 穂丸 武臣 (名古屋経営短期大学)
石垣 享 (愛知県立芸術大学)
石田 直章 (名古屋芸術大学)
岡野 昇 (三重大学)
春日 晃章 (岐阜大学)
片山 敬章 (名古屋大学)
坂口 俊哉 (鹿屋体育大学)
庄司 節子 (名古屋経済大学)
水藤 弘吏 (愛知学院大学)
鈴木 壯 (岐阜大学)
寺田 恭子 (名古屋短期大学)
富樫 健二 (三重大学)
中野 貴博 (名古屋学院大学)
藤井 勝紀 (愛知工業大学)
吉田 文久 (日本福祉大学)

序 文

21世紀は正に創造と科学の時代である。コンピュータの発展には目を見張るものがあり、高度成長の結果として1980年代から大型コンピュータ全盛期が到来し、スーパーコンピュータの開発がしのぎを削っていた。そのコンピュータも1990年をピークにダウンサイジング化に移行していく。すなわち、コンピュータ科学の新たな創造の結果として、個人で扱うことができるパーソナルコンピュータの普及である。1995年には周知のようにウィンドウズ95が世界的に普及することになる。以後、ウィンドウズ98、Me、XP、2007年にはVISTAが登場し、今やウィンドウズ7の時代である。正に創造を越えた進化の時代に突入したのである。

パーソナルコンピュータの普及によってスポーツ科学の世界も転換期を迎えることになる。インターネットの普及から世界中のスポーツ情報が瞬時に把握できる。正にスポーツ情報発信の創造である。さらにパソコンの進化によって、スポーツ競技記録の向上、発展にアプローチできる新たな科学的手法の創造である。もちろんスポーツ科学研究へのアプローチもパソコンが欠かせない。要するに、コンピュータ科学とスポーツ科学の融合が新たなスポーツ科学を創造しているのである。他の分野においてもコンピュータ科学との融合は欠かせないが、とりわけスポーツ科学分野はコンピュータ科学の貢献が著しい。スポーツ科学の自然科学分野（運動生理、スポーツ心理、バイオメカニクス、発育発達、測定評価、スポーツ方法）では、コンピュータによる画像解析、各種測定機器、コンピュータによる統計処理等で新たな研究の創造が可能になった。人文系分野（スポーツ社会、スポーツ経営、歴史、原理）においてもコンピュータの恩恵は欠かせない。しかし、人文系では別の角度から新たなスポーツの創造にアプローチしていかなければならないであろう。

創造とは、日本創造学会（Japan Creative Society）によれば、「人が異質な情報群を組み合わせて統合して問題を解決し、社会あるいは個人レベルで、新しい価値を生むこと。」と定義しているが、スポーツ科学分野において新しい価値を生むこととは何であろう。日本体育学会では、新たな専門分科会の結成にアダプテッドスポーツや介護福祉健康づくりの分野が設けられ、スポーツ科学の発展に向けて新たな動きを見せている。これは学会からの新しい価値観の発信

であり、新たなスポーツ科学の創造ともいえる。よって、スポーツ科学の発展に向けた研究成果を導くことは新しい価値を生むことであり、正にスポーツ科学の創造であろう。また一方で、スポーツを介して新たな価値観が生まれている。それはプロスポーツの出現によって世界がスポーツを介して同じ価値観を共有するようになった。近年のオリンピックをみればわかるように、参加国の増大によりスポーツの社会的役割が新たな価値観を形成している。つまり、スポーツの本質が変化しており、教育現場においてもスポーツを介した新たな教育効果が期待されることになる。正にスポーツに対する哲学の創造が望まれるわけである。

このように21世紀はスポーツ科学にとって正に創造の時代といえよう。東海体育学会は日本体育学会の支部を兼ねながら独立学会としての歴史も久しい。2010年で東海体育学会は第58回大会を迎えた。50回記念大会に際しては、東海体育学会では初めての試みとなる課題研究「情報と身体」を企画し、学会活性化を図った。今回の課題研究はこのような経緯からさらに東海体育学会の発展を目指して企画しようとしたのである。今回の課題研究「創造とスポーツ科学」では、上述したように体育学・スポーツ科学の領域全般にわたってアプローチできる課題と思われる。幸いにも東海体育学会では9年程前の平成11年に研究交流委員会の組織が結成された。前回の課題研究ではこの研究交流委員会が中心となって行われた経緯があり、本課題研究においても東海体育学会研究交流委員会が中心となり、各研究分野からユニークな研究手法の開発や奇抜な研究知見が提供された。そして、各研究領域ごとに課題が検討され、テーマごとに3~4回の発表会を企画してきた。最終的に発表者にはその発表内容を吟味してもらい、原稿を認めてもらうことにした。その原稿内容を4部に分けて本書を構成した。したがって、体育学・スポーツ科学分野を1つにまとめている関係から、それぞれの担当執筆間での関連性が薄いかもしれないが、しかし、各執筆者の独創性は十分発揮されていると考える。ここに東海体育学会の発展と活性化を祈願して本書の発刊に期するものである。

2011年1月

藤井勝紀

第1部 創造とスポーツ

第1章	創造とは	…………… [穂丸武臣] ……	2
第2章	創造と科学	…………… [吉田文久] ……	7
第3章	スポーツと科学	…………… [冨樫健二] ……	16

第2部 スポーツと教育的創造

第4章	幼児期における心身の発達と創造	…………… [春日晃章] ……	22
第5章	「文化的実践への参加」としての 体育授業の創造	…………… [岡野 昇] ……	35
第6章	アスリートの苦悩と創造性	…………… [鈴木 壯] ……	46
第7章	近代日本における女性スポーツの創造 —大正期の東海女學生キツンボール大會への視線—	…………… [庄司節子] ……	57
第8章	重度障がい者とスポーツの創造	…………… [寺田恭子] ……	72

第3部 スポーツ科学の方法論的創造

第9章	創造的泳法技術評価法の確立	…………… [水藤弘史] ……	90
第10章	障がい者レジスタンス・ トレーニングの創造	…………… [石田直章] ……	100
第11章	生活・衛生習慣調査法による データの国際比較	…………… [中野貴博] ……	118
第12章	地球温暖化と熱中症予防対策法	…………… [石垣 享] ……	129

第4部 スポーツ科学の発展と創造

第13章	トラベルコスト法の創造的価値	…………… [坂口俊哉] ……	144
第14章	生活習慣病予防・改善に対する 低酸素環境利用の可能性	…………… [片山敬章] ……	157
第15章	初経遅延判定の発展とシステム化の創造	…………… [藤井勝紀] ……	168
索引	……………	……………	185

2011年3月1日 第1版第1刷発行

創造とスポーツ科学

定価(本体2,000円+税)

検印省略

編者 東海体育学会 ©

発行者 太田 博

発行所 株式会社 杏林書院

〒113-0034 東京都文京区湯島4-2-1

Tel 03-3811-4887(代)

Fax 03-3811-9148

<http://www.kyorin-shoin.co.jp>

表紙デザイン 保田 薫(HILLBILLY)

ISBN 978-4-7644-1580-5 C3037

三報社印刷／川島製本所

Printed in Japan

乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。

・本書の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は株式会社杏林書院が保有します。

・**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail : info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。